

巻 頭 言

愛知県小児科医会副会長
宮田 隆夫

昭和39年大学を卒業したが、この頃より小児科学が急速に進歩した。点滴、新生児黄疸に対する光線療法なども行われるようになり、多くの未熟児が、さらに抗生物質の進歩により多くの細菌感染症から子どもが助かるようになった。溶連菌、インフルエンザ、RSウイルス、アデノウイルスなどの迅速診断、ECHOなどによる診断法の進歩が目覚ましい。

しかし抗生物質の濫用による耐性菌の増加、AIDS、新型インフルエンザの出現、子どもに対する虐待、以前あまりみられなかった？ADHD、さらに地球温暖化など、子どもを取り巻く環境に多くの問題がある。

子どもへの虐待について20年以上前に経験した。その当時、親が自分の子どもを虐待するなんて思いもしなく驚いたが、今虐待の報道が無いほうが珍しいくらいである。警察庁がやっと虐待が疑われる場合、立ち入りをするという。当然である。

小児救急が問題となっているが、名古屋では平日夜間および日曜、祭日に名古屋市医師会休日急病診療所で小児科医が出務している。私は我々開業小児科医が深夜帯に病院に行き、一時救急を行うのが良いと思う。

予防接種について日本全国どこでも接種できるのが当然と思うが、各自治体ごとの接種となっている。またいままで使用してきた日本脳炎ワクチンが急に中止になったり、HIBワクチンもまだ認可されていない等多くの問題がある。

少子化が大きな社会問題となっているが、医療費については義務教育と同じく中学卒業まで公費負担（所得制限なし）にすべきである。

小児科というのはとてもやりがいのある科

で、小さい時から診ていた子が大きくなり、いつまでも信頼してくれる。小児科医になって本当に良かったと思う。大切な子どもを護るため、小児科医が頑張ろう。